

「エチオピアの宦官への伝道 2」

2016年04月21日

使徒言行録8章34節～40節。宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの個所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか。」そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行った。

フィリポは主の天使に導かれ、エジプトに通じるガザの街道に向かった。そこで、エチオピアの女王の全財産を管理する宦官に出会った。彼は馬車でエルサレム神殿に礼拝に行けるほど裕福ではあったが、去勢させられ、自分の人生を失った苦悩の中で、天地を創造した唯一全能の神が民を救うと約束するユダヤ教に改宗し、救いを求めた。神殿に礼拝に行った帰り道、襟を正し、イザヤ書53章の「主の僕の歌」の個所を朗読していた。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」彼はこの聖句から目が離せなくなった。その時、フィリポに声をかけられ、傍に座るように勧め、教えを請うた。彼は「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか」と問うた。屠り場に引かれていく小羊のように黙して、卑しめられ、子孫について語れない、命を取り去られた人はイザヤ自身のことですか、それとも、誰か他の人について言っているのでしょうかと聞いている。彼は、惨い仕打ちを受けて、死人のようになった人を自分に重ねて見たのである。経済的には何の不足もない。けれども、去勢させられ、子孫を残すことはできない。女王の命令に「仰せの通りにいたします」という言葉しか持たない。既に命を取り去られている。苦難を負ったこの人は自分自身のことだと思い、目が離せず、フィリポに問うたのである。宦官は自分ほど惨めな者はいないと自己憐憫の塊であった。

フィリポはこの聖句から、主イエスの福音について語った。次のようなことであったと想像できる。フィリポは、苦難の人こそ主イエスであると語った。主イエスは愛と真実を現されたが、理不尽な十字架で殺されることを通して、罪の赦しを告げ、神に「是認された生」を全ての人に与えられたと話したに違いない。これを聞いた宦官は、水のある所に来た時、「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか」と受洗を求めた。他の写本では「イエス・キリストは神の子であると信じます」と、キリスト告白をしたと書き加えている。フィリポは洗礼を授けた。宦官は喜びに溢れ、エチオピアに帰って行った。自分の苦悩とは比べられないほど過酷な十字架の死によって、神に「よし」とされる是認宣言をくださったイエスをキリストと信じた。自己憐憫から解放され、神の恵みに生かされている自分を見出したのである。フィリポは霊に導かれて、町々を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行った。エチオピアは古くから、キリスト教徒の多い国であるが、宦官への伝道が出発点になったのではない。